

# 来夏参院選へ動き活発

## 県内各党

来年夏の参院選に向け、大分県内の与野党が動きを活発化させてきた。大分選挙区(定数1)の改選議席を持つ自民党の現職、礒崎陽輔氏(60)は農林水産副大臣が3選を目指す。野党各党は連携を強め、統一候補の擁立を模索する。2年前の参院選では野党が議席を守った経緯があり、野党共闘の成否が大きな焦点となる。(5面に関連記事)

## 大分選挙区

「所得向上で後継者が生まれ、持続的な農林水産業ができる。成長産業化を図っていきたい」。8月上旬に臼杵市で開いた集会で、礒崎氏は1次産業の振興に取り組む姿勢を強調した。

公務のため国会閉会後も東京を離れられず、県内の活動は週末が中心。豊後大野、国東、佐伯市などで「対話集会」を精力的に重ね、実績をアピールする。2012年から首相補佐官を3年近く務め、内閣の中枢で国政に携わった。後援会幹部は「政府とのパイプが太く、地震など大規模

災害では国への要望で助けられた。3期目はさらに上のポストを」と期待する。「現時点では全くの白紙」としている。

自民党県連は来年春の統一、参院選と連動させて支持拡大を図る構えだ。阿部英仁会長は「保守票を確実に取り込むことが第一。統一選で勝利し、勢いをつけて参院選に臨みたい」。

公明党県本部は比例代表の現職1人と、福岡選挙区(定数3)から出馬する新人の底上げに全力を挙げ

大分選挙区を巡る対応について河野成司代表は「現時点では全くの白紙」としている。

一方の野党。立憲民主、国民民主、社民の3党と連合大分は7月に「4者調整会議」を立ち上げ、候補一本化に向けた協議をスタートさせた。関係者によると、一部の党は既に意中の候補者に水面下で接触しているという。

07年、13年の参院選では野党の足並みが乱れ、「結

### 参院選大分選挙区 戦いの構図は？



礒崎 陽輔氏(自民・現)



V S

果的に礒崎氏を利用する状況を生んだ(連合大分幹部)。このため、連合サイドは「一枚岩で戦える候補」の擁立を強く求める。立憲党県連の増原寛幹事長代理は「各党が一本化の方針を共有し、ふさわしい候補を考えている段階」。国民党県連の小嶋秀行幹事長は「単独でも擁立はでき

# 礒崎氏が3選に意欲 野党、統一候補を模索

16年参院選大分選挙区で、公認候補を取り下げた共産党県委員会の林田澄孝委員長は「共産党を含む野党共闘でなければ与党には勝てない。ただし、立憲主義の回復や安保法制廃止で一致できることが条件」と述べた。(百崎浩嗣、加納慶、川野丈一)